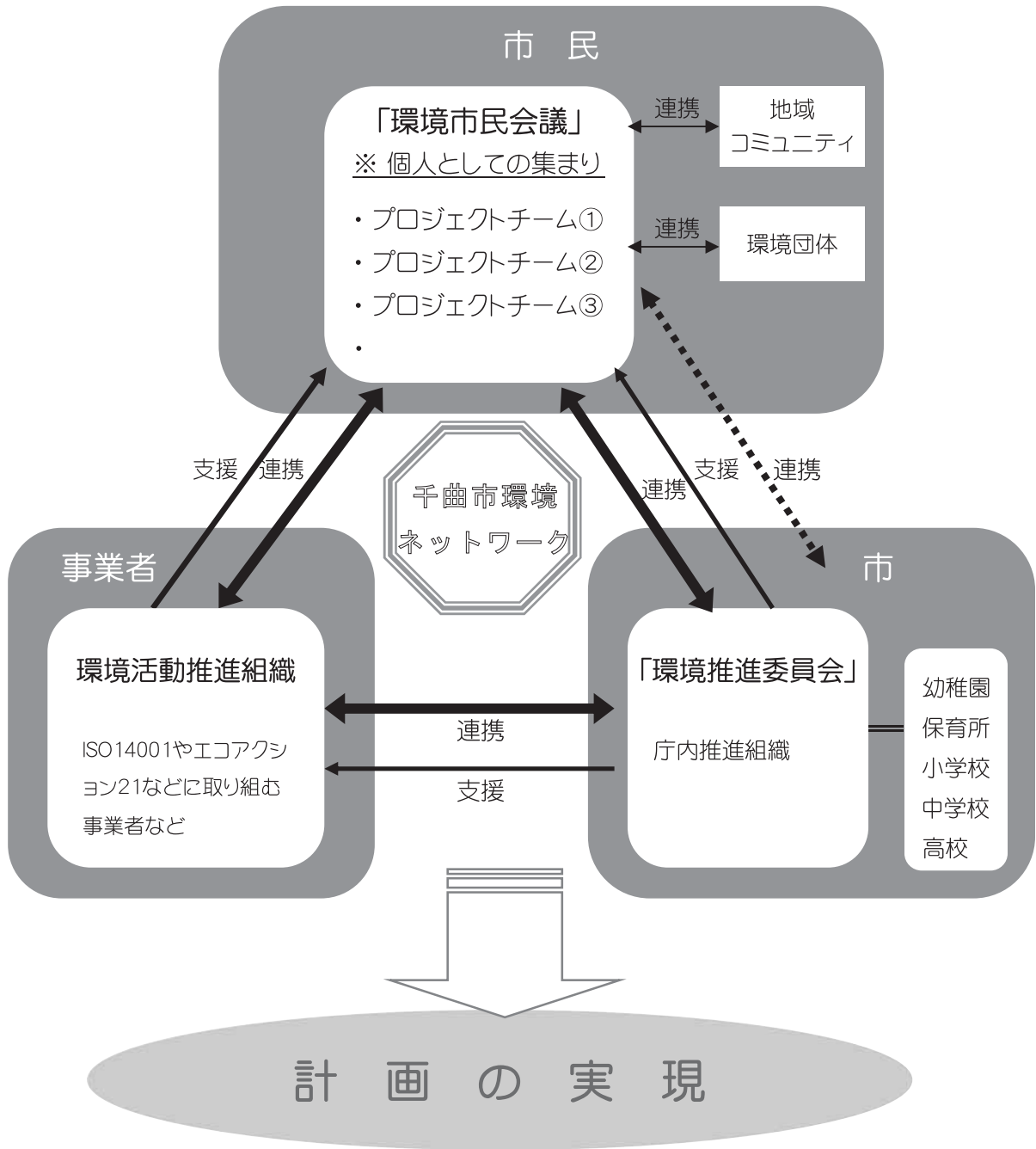


第4章 推進体制と進行管理

1 推進体制

環境基本計画を単なる計画に終わらせないためには、推進体制を確立し、市民や事業者へ情報公開をしていくことが不可欠です。



環境活動の推進体制

千曲市は平成16年8月に「千曲市まちづくり市民参画指針」をつくり、市民と協働していくための体制整備をすすめています。市民が自ら自立的な活動を展開するため、千曲市の現状を踏まえ、本環境基本計画で策定されている諸施策を推進する体制を市民、事業者、市の各主体ごとに立ち上げるものとししました。

まず、多様な市民の活動の受け皿として、だれもが参加できる「環境市民会議」をつくります。この「環境市民会議」は、環境基本計画策定市民委員会を発展させた形で、一人ひとりの市民で構成され、各種環境団体や区・自治会などからも、さまざまな人たちの参加が期待されますが、すべての人が対等の個人として参加するものとしします。事務局は「市民環境センター」内に置き、市民への環境活動支援、環境団体間の調整・協力支援体制の構築、自らの環境活動の実施などを行います。なお、「環境市民会議」はNPO法人を目指します。

また、事業者の環境活動の場として、環境活動推進組織を立ち上げるものとしします。口開けとして、ISO14001認証取得企業やエコアクション21取り組み企業などを中心に構成します。具体的な枠組みは今後の取り組みの中で決めるものとしします。

一方、市では市民や事業者の環境活動と協働する環境活動推進組織として、関係部署を横断した「環境推進委員会」を設けます。委員長は環境部長があたり、事務局は環境課としします。

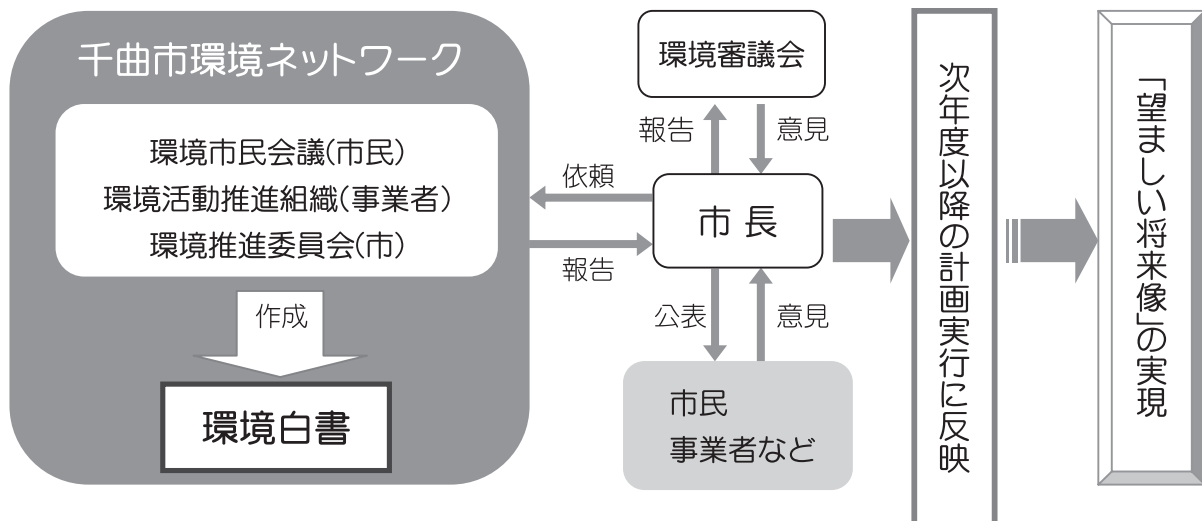
そして、市民、事業者、市の各主体ごとに立ち上げられる組織の連絡調整役を行うのは、これら三者間に設ける「千曲市環境ネットワーク」です。事務局は環境課に置いて、すすめていきますが、市民の自発的な参画を期待します。

2 進行管理

2-1 進行管理体制

環境基本計画で定めた取り組みの進行管理は、「千曲市環境ネットワーク」が調整役となって、市民の「環境市民会議」、事業者の環境活動推進組織、市の「環境推進委員会」が協力して、環境基本計画の進行状況について、毎年、環境基本計画年次報告書「環境白書」（以下「環境白書」という。）をとりまとめ、市長に報告します。

「環境白書」の報告を受けた市長は、これを環境審議会に報告して意見を求めた上で、広く市民に公表します。公表は報告書をはじめ、市報や市のホームページなど多様な方法で行います。市民から寄せられた意見などは次年度以降の取り組みに反映させ、市民、事業者、市が一体となって「望ましい将来像」の実現に向かってすすむよう努めます。



環境基本計画の進行管理の体制

【市長は】

毎年、「千曲市環境ネットワーク」に対して「環境白書」のとりまとめと報告を依頼します。その内容を環境審議会に報告し、環境審議会の意見を踏まえた上で、市民、事業者などに公表します。

【千曲市環境ネットワークは】

個人の集まりである「環境市民会議」、事業者の環境活動推進組織、市の「環境推進委員会」、この三者でつくられ、連絡調整役を果たします。市内の環境活動や、環境施策の実施状況など、環境基本計画の進行状況を「環境白書」にとりまとめ、市長に報告します。事務局は環境課に置きます。

【市民、事業者などは】

「環境白書」をもとに、環境基本計画の進行をそれぞれの立場で検証し、次年度以降の計画の実行に反映し、「望ましい将来像」の実現に向けて取り組みます。

2-2 進行管理内容

進行管理内容は、数値による環境指標と、数値化が難しい環境指標に大別して評価します。数値による環境指標ができる項目は極力数値化するように努めます。特に、環境基本計画に明記されている「10年後の目標」については、全項目について進行状況を取りまとめます。

その他の取りまとめ項目、調査内容などは、「千曲市環境ネットワーク」あるいはその構成グループの創意と工夫によりますが、「望ましい将来像」の主役である小、中、高校生も参加した検証にします。この小、中、高校生も参加した検証は、特に数値化しにくい環境指標について実施し、多くの子どもや若者の自然な目線で評価します。

これらの評価例を以下に示します。



環境指標による進行管理例

基本方針2 自然豊かなふるさと

長期目標2-1 泳ぎたい千曲川を復活します

数値による環境指標

10年後の目標と現状値

項目	現状値(H16)	H0年	10年後(H27)
千曲川へ流入する河川の千曲川合流部でのBOD(年間の平均)	調査河川の平均 2.4mg/l	0mg/l	全河川で 2.0mg/l以下
下水道、浄化槽等による水洗化率	53%	0%	80%
親水拠点の整備	—	0箇所	3箇所

数値化できない環境指標

「望ましい将来像」の主役である小、中、高校生も参加します。

活動状況、個人の実感など、数値化できない項目について、以下の5段階で評価します。

(1 : まったく思わない 2 : あまり思わない 3 : 変わらない、わからない)
(4 : 少し思う 5 : とても思う)

数値化できない環境指標例

項目	評価				
	1	2	3	4	5
①千曲川の河原にヨシ原が増えたと思う					
②千曲川の水質がきれいになってきていると思う					
③千曲川で泳ぎたいと思う					
④授業などで千曲川に行く機会が増えたと思う					
⑤千曲川に捨てられているごみが減ったと思う					
⑥家族や友人と千曲川に行く機会が増えたと思う					